

編入学試験問題集

＜令和 7(2025)年度＞



公立大学法人

名桜大学

MEIO UNIVERSITY

この入学試験問題集には、令和 7(2025)年度 3 年次編入学試験で出題した試験問題を収録しています。著作物は、すべて著作者もしくは出版社の許諾を得て転載しています。

【 目 次 】

■ 令和 7(2025)年度 3 年次編入学試験 個別試験科目等一覧	1
■ 令和 7(2025)年度 3 年次編入学試験結果	2
■ 令和 7(2025)年度 国際学部	
◇ 国際文化学科 3 年次編入学試験	
事前提出型小論文	3
◇ 国際観光産業学科 3 年次編入学試験	
事前提出型小論文	6
■ 令和 7(2025)年度 人間健康学部	
◇ スポーツ健康学科 3 年次編入学試験 小論文	9
■ 令和 7(2025)年度 人間健康学部	
◇ 看護学科 3 年次編入学試験 総合問題	11
■ 令和 7(2025)年度 人間健康学部	
◇ 健康情報学科 3 年次編入学試験 小論文	16
■ 各試験問題「出題の意図」「模範解答」	21

令和 7(2025)年度 3 年次編入学試験 個別試験科目等一覧

学部学科	個別試験科目等	本問題集での収録
国際学部 国際文化学科 国際観光産業学科	事前提出型小論文 オンライン面接	○ —
人間健康学部 スポーツ健康学科	書類審査 小論文 面接	— ○ —
人間健康学部 看護学科	書類審査 総合問題 面接	— ○ —
人間健康学部 健康情報学科	小論文 面接	○ —

令和7(2025)年度 3年次編入学試験結果

学部	学部・学科	選 抜 区 分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
国 際 学 部	国際文化学科	3年次編入学試験	5	5	5	4	3
	国際観光産業学科	3年次編入学試験	5	7	7	5	4
人 間 健 康 学 部	スポーツ健康学科	3年次編入学試験	5	4	4	2	2 ※1名2年次に編入
	看護学科	3年次編入学試験	5	12	11	5	4
	健康情報学科	3年次編入学試験	5	2	2	1	1

令和 7 年度

名桜大学 国際学部
国際文化学科

編入学試験

事前提出型小論文

出題日時：令和 6 年 11 月 19 日（火）午前 10 時 30 分

注意事項

1. 解答用紙にインターネット出願整理番号及び氏名を必ず記入すること。
2. 事前提出型小論文の問題の指示に従って解答すること。
3. 指定された解答用紙を印刷し、手書き（鉛筆書き）で解答すること。
4. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に横書きで記入すること。
5. 解答に際し、参考にした本やホームページ等がある場合は、「参考文献・資料等」を記入し、提出すること（無い場合はその旨を記入して提出すること）。複数枚になる場合は、適宜コピーして作成すること。
6. 事前提出型小論文の答えは、郵便局（ゆうゆう窓口含む）において、令和 6 年 11 月 20 日(水)の午前中までの消印で、簡易書留・速達で提出（送付）すること。提出日を過ぎた答えは受理しない。

【設問】以下の文章を読み、先住民族の権利について、あなたの考えを述べなさい。

答案を作成する際には次の指示に従うこと。

- 複数の段落で文章を構成すること。
- 題目、見出しは書かないこと。
- 1100字以上1200字以内で書くこと。
- 一般的な原稿用紙の使い方に則って、横書きで書くこと。

先祖たちのように、川でサケ漁をしたい——。その権利の確認を求め、北海道浦幌町のアイヌ団体が国と道を相手取って起こした訴訟の判決が先週、札幌地裁であった。

日本も賛成した2007年の国連の「先住民族の権利に関する宣言」は、先住民族が伝統的に所有や使用をしてきた「土地や領域、資源に対する権利を有する」と定める。国際的には、先住民族が生活に必要な魚類などの自然資源を利用できる地域もある。

江戸期に交易を通じて和人の経済社会に取り込まれたアイヌ民族は、労働力を搾取され、困窮していった。明治期には、土地政策や同化政策、伝統的な狩猟や漁労の禁止により、さらに打撃を受けた。

国会は08年にアイヌ民族を先住民族だと認めるよう政府に求めると決議。19年にアイヌ施策推進法が制定。20年には国立施設が開業した。

しかし、政策の基調にあるのは文化の振興で、アイヌ民族から奪ったものの清算という視座は欠けていた。今回の裁判が、不問に付されてきた先住民族に固有の権利、いわゆる先住権の問題を議論の俎上（そじょう）に載せた意義は大きい。

判決は、アイヌの人々には固有の文化を享有する権利があり、生活や伝統の重要な部分を占めるサケ漁は最大限尊重されるべきだとしつつ、公共の河川で漁業を排他的に営むことは当然には許されないと、訴えを退けた。排他的な漁業権がおおよそ成立し得ないわけではないが、設定するかは立法政策の問題で、現行法では認められないと述べた。

政治が先住民族の権利にどう向き合うか。世界的な流れの中で、今後国際社会からも問われることになるだろう。

過去の清算は、アイヌ民族の墓からの遺骨収集など負の歴史を持つ学界の課題でもある。日本文化人類学会は、過去の一方的な研究姿勢への謝罪を表明した。ただ、反省をふまえて同学会など4団体が検討する研究倫理指針案に対しては、「アイヌを研究対象ではなく、対等なパートナーに」といった声もあがる。

問題は依然あるのに、同化政策や差別への恐れから、アイヌ民族の存在が見えにくくなる中、差別があることを否定する言説も生じている。

「アイヌであることを理由として、差別することその他の権利利益を侵害する行為をしてはならない」とするアイヌ施策推進法は、5年で施行状況を検討することになっており、岸田文雄首

相は5月以降それを行うと、国会で答弁した。政府が、現にある差別とその歴史的経緯から目をそむける余地はないはずだ。

出典：『朝日新聞デジタル』「社説：アイヌ漁業権 問われる未清算の過去」（2024年4月27日 掲載）

<https://www.asahi.com/articles/DA3S15921856.html>（参照日 2024年8月27日）

朝日新聞社に無断で転載することを禁止する。

令和 7 年度

名桜大学 国際学部
国際観光産業学科

編入学試験

事前提出型小論文

出題日時：令和 6 年 11 月 19 日（火）午前 10 時 30 分

注意事項

1. 解答用紙にインターネット出願整理番号及び氏名を必ず記入すること。
2. 事前提出型小論文の問題の指示に従って解答すること。
3. 指定された解答用紙を印刷し、手書き（鉛筆書き）で解答すること。
4. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に横書きで記入すること。
5. 解答に際し、参考にした本やホームページ等がある場合は、「参考文献・資料等」を記入し、提出すること（無い場合はその旨を記入して提出すること）。複数枚になる場合は、適宜コピーして作成すること。
6. 事前提出型小論文の答えは、郵便局（ゆうゆう窓口含む）において、令和 6 年 11 月 20 日(水)の午前中までの消印で、簡易書留・速達で提出（送付）すること。提出日を過ぎた答えは受理しない。

【設問】 次の文章を読み、地域文化の重要性についてあなたの考えを論じなさい。

答案を作成するには次の指示に従うこと。

- 複数の段落で文章を構成すること。
- 題目、見出しは書かないこと。
- 1100 字以上 1200 字以内で書くこと。
- 一般的な原稿用紙の使い方に則って、横書きで書くこと。

地域の文化や伝統を物語としてまとめて文化庁が認定する日本遺産に、「琉球王国時代から続く琉球料理と泡盛、芸能」が選ばれた。

日本の宝として、沖縄が誇る「おもてなし文化」が発信されることを期待したい。

日本遺産制度は、地域活性化や観光振興を目的に 2015 年度から始まった。各地の有形・無形の文化財を一つのストーリーでつなぎ、点在する文化財を「面」として捉えることで、総合活用していこうというユニークな取り組みだ。

重視しているのは地域の魅力を発信する明確なテーマと分かりやすい物語性。県内の認定は初めてとなるが、この 5 年間で遺産は 83 件まで広がった。

今回、県は首里城のある那覇市、国立劇場のある浦添市と連名で申請。琉球料理、泡盛、芸能を核に次のようなストーリーを描く。

＜沖縄はかつて琉球王国と呼ばれ、独自の文化を形成してきた。中国皇帝から派遣された冊封使節団の宴は国を挙げての重要な行事で、冊封使をもてなす料理や芸能に力を注いだ。王国時代に育まれた食文化と芸能は、「世替わり」の歴史を映しながら、連綿と続く「守礼の心」で受け継がれている＞

ミスダルや花イカなどが盛り付けられた東道盆（トゥンダーブン）料理、^{ほうじゆん}芳醇な香りと深いこくの泡盛、古典音楽に乗せて演じられている組踊や琉球舞踊は、優雅な王朝文化を今に伝えるロマンがある。

日本遺産に認定されると、国が観光ガイドの育成や多言語のホームページ作成といった取り組みを支援する。

認定がきっかけで外国人観光客が急増するなど呼び込みに成功した地域もある。外国客の増加に伴い飲食店などで多言語メニューに備える自発的な動きも広がっているという。

18 年度に沖縄を訪れた観光客は 999 万 9 千人で 6 年連続して過去最高を更新した。増加に大きく寄与したのは全体の 3 割を占めるまでになった外国客。その増加率に比べると国内客の伸びは鈍化傾向にある。

観光が好調な今だからこそ、新たな観光客の誘致と「また来たい」と思わせる工夫が必要だ。

分かりやすいストーリーで沖縄の文化や伝統を紹介していくことは、消費の多い欧米客を呼び寄せる有効な手段になるのではないか。遺産の魅力を磨けばリーピーターにつながるだろう。

日本遺産認定を、琉球料理と泡盛のユネスコ無形文化遺産登録に向けたステップにしたいとの声も強い。

特に琉球料理は、伝統の継承と普及を目指す琉球料理保存協会が設立されたばかりで、「琉球料理の日」制定などを訴えている。

伝統的な食文化が失われつつある現状を踏まえれば、関係機関と連携した対策が急務である。

学校給食の中で子どもに親しんでもらったり、地域で料理講習会を開くなど、継承への土壌をつくっていくことも重要だ。

出典：「社説 琉球料理など日本遺産／地域の魅力磨き上げよ」『沖縄タイムス社提供』

2019年5月22日5ページより引用

令和 7 年度

名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科

編入学試験

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
2. 解答時間は 90 分である。
3. 解答用紙に受験番号、氏名を必ず記入すること。
4. 解答方法は次のとおりである。
 - 1) 解答はすべて解答用紙の所定の欄に横書きで記入すること。
 - 2) 解答用紙の他に下書き用紙を配布するので取り違えないように注意すること。
 - 3) 試験問題の裏及び余白を下書きに使用しても良い。
5. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

次の文章を読み、設問に答えなさい。

ブリヂストンは1日、国際オリンピック委員会（IOC）と結んでいる最高位スポンサー*1の契約を年内で終えると発表した。トヨタ自動車とパナソニックホールディングス（HD）も年内終了を発表しており、契約している日本企業3社がすべて撤退する。

ブリヂストンは2014年、IOCと最高位スポンサー契約を結んだが24年12月末をもって更新しないと決めた。今後は「持続可能なグローバルモータースポーツ活動に注力する」としている。

最高位スポンサーは1業種1社に限定されており、米コカ・コーラなど世界の大手企業が名を連ねる。五輪の競技会場内で広告看板の形では企業名やブランド名を掲示できないが、世界中の広告活動で五輪のロゴを使うことができる。

ブリヂストンは大会中にタイヤを選手移動などに使う車両に納めてきた。契約額は非公表だが、費用に見合った効果が得られなかったもようだ。

パナソニックHDは社名が松下電器産業だった1987年に五輪の最高位スポンサーとなり、37年間契約を続けた。放送用カメラや大型プロジェクターを納めてきた。

パナソニックHDは24年に業務用の大型プロジェクター事業をオリックスに売却することを発表し、かつて主力製品だったテレビが事業全体に占める割合も低下している。9月にスポンサー撤退を決めたのも事業内容と五輪との相乗効果を考慮したものともみられる。トヨタ自動車も24年末をもって最高位スポンサー契約を終了する。

海外企業でも米マクドナルドが16年のリオ五輪を最後に最高位スポンサー契約を終了している。

*1 TEAM JAPAN パートナiershipプログラムでは、Tier 1、Tier 2、Tier 3 の3つの階層に分かれており、Tier 1 はゴールドパートナーと呼ばれ、国内の最高位スポンサーに該当する。

出典：ブリヂストン五輪撤退：最高位スポンサー、日本企業ゼロに『日本経済新聞』2024年10月2日
<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO83822450R01C24A0TB1000/>

問題 スポンサーの撤退理由について推察し、あなたが考える五輪の変革案を述べなさい。（1000字以内）

令和 7 年度

名桜大学人間健康学部看護学科

編入学試験

総合問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
2. 解答時間は 120 分である。
3. 解答用紙に受験番号、氏名を必ず記入すること。
4. 解答方法は次のとおりである。
 - 1) 解答はすべて解答用紙の所定の欄に横書きで記入すること。
 - 2) 解答用紙の他に下書き用紙を配布するので取り違えないように注意すること。
 - 3) 試験問題の裏や余白を下書きに使用してもよい。
5. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること

I 次の文章について設問に答えなさい。

加齢に伴い増加する認知症は脳の a きのうていかが原因となって起こる。脳は情報伝達の中枢であり、b きおくや判断、さらには感情などを司る重要な c きかんである。

脳は大腦、小脳、間脳、脳幹からなり、脳幹は脊髄に続く部位で、下から延髄、橋、中脳からなっている。人の神経系は脳と脊髄によって構成される(①)と全身に走行している抹消神経系に大別される。末梢神経系は(②)や副交感神経からなる(③)、運動神経と感覚神経からなる(④)からなる。神経系の最小単位である神経細胞(ニューロン)は(⑤)やミトコンドリアなどの存在する細胞体と神経線維である(⑥)からなり、細胞体からは多数の(⑦)が出ている。

認知症は老化に伴い主に神経細胞(ニューロン)の変性や d いしゅくによるアルツハイマー病、脳血管の e しょうがいで起こる脳血管性認知症などに伴う症状である。

設問 1 下線の a～e を漢字に直しなさい。(5×5 点＝25 点)

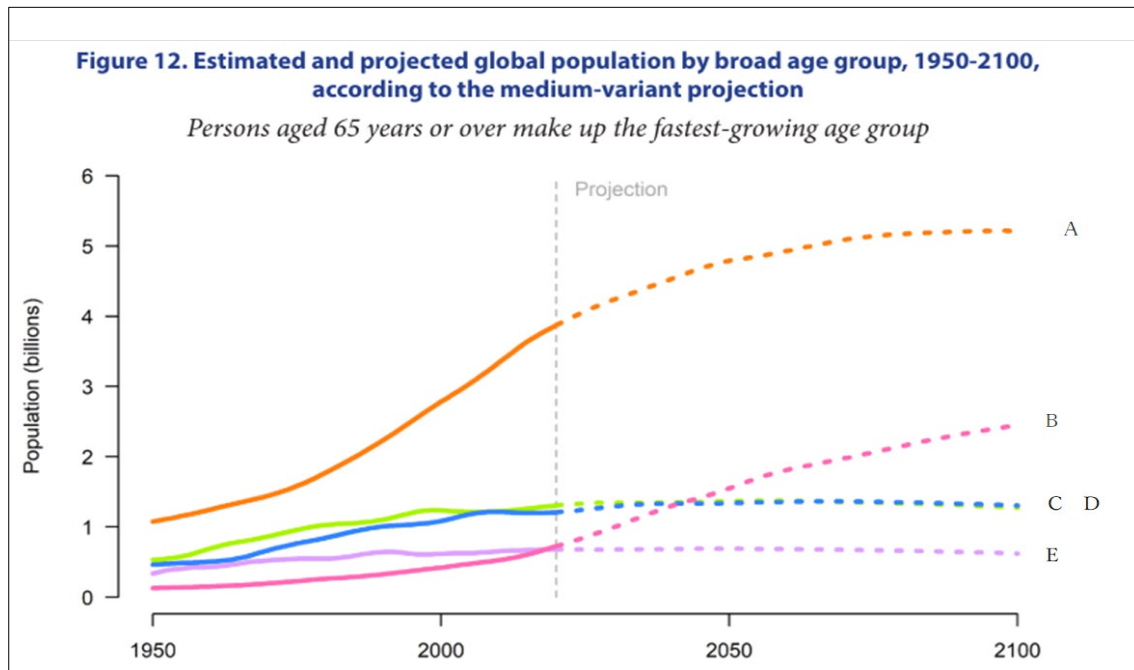
設問 2 文中の①～⑦に入る語句を下記の語群より選びなさい。(7×5 点＝35 点)

ア. 体性神経系 イ. 延髄 ウ. 樹状突起 エ. 中枢神経系 オ. 中脳 カ. 核
キ. 神経伝達物質 ク. 自律神経系 ケ. 軸索 コ. 橋 サ. 細胞体 シ. 交感神経

II 次の文章および Figure12 は World Population Prospects 2019 Highlights の一部を抜粋し、部分的に日本語に訳したものである。文章および Figure12 を見て設問に答えなさい。

① In 2018, for the first time in human history, persons aged 65 years or over outnumbered children under five years of age worldwide. Between 2019 and 2050, the number of persons aged 65 or over globally is projected to more than double, while the number of children under five is projected to remain relatively unchanged. Consequently, the projections indicate that in 2050 there will be more than twice as many older persons as children under five. Moreover, it is expected that in 2050 the ② 1.5 billion people aged 65 years or over worldwide will outnumber adolescents and youth aged 15 to 24 years (1.3 billion). ③ Whereas the overall numbers of males and females globally are about equal, women outnumber men at older ages owing to their longer average life expectancy. In 2019, women comprise 55 per cent of those aged 65 years or over and 61 per cent of those aged 80 years or over globally.

2019 年で人口 9 万人以上の 201 の全ての国や地域で、2019 年から 2050 年の間に 65 歳以上の高齢者の割合は増加することが予測されている。2019 年の世界④ レベルでは、約 9% が 65 歳以上である。世界の高齢者の割合は、2030 年にはほぼ 12%、2050 年には 16% に達し、2100 年にはほぼ 23% に達する可能性が予測されている。



出典：World Population Prospects 2019 Highlights より引用。図は一部改変した（2024.11月19日）

URL: https://population.un.org/wpp/publications/files/wpp2019_highlights.pdf

Copyright © 2019 by United Nations, made available under a Creative Commons license CC BY 3.0 IGO: [http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/igo/Department of Economic and Social Affairs, Population Division \(2019\). World Population Prospects 2019, Online Edition. Rev. 1.](http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/igo/Department of Economic and Social Affairs, Population Division (2019). World Population Prospects 2019, Online Edition. Rev. 1.)

設問 1 下線①の文章を日本語にきなさい。（20 点）

設問 2 下線②を日本語にきなさい。（5 点）

設問 3 下線③の内容について正しいものを 2 つ選びなさい。（2×10 点＝20 点）

- (1) 2019 年、世界全体の 65 歳以上では男性が 55%を占める。
- (2) 2019 年、世界全体の 80 歳以上では男性が 61%を占める。
- (3) 世界の男女の全体数は女性が多い。
- (4) 世界の男女の全体数は男性が多い。
- (5) 世界の男女の全体数はほぼ同じである。
- (6) 男性より女性の平均寿命が長いため、高齢になると女性が男性より多くなる。

設問 4 下線④を英語にきなさい。（5 点）

設問 5 **Figure12** の B および E の年齢層を下記のア～オより選びなさい。（2×5 点＝10 点）

ア. 0～4 歳	イ. 5～14 歳	ウ. 15～24 歳	エ. 25～64 歳	オ. 65 歳以上
----------	-----------	------------	------------	-----------

Ⅲ 下記の表 1 は国立社会保障・人口問題研究所日本の将来人口推計（令和 5 年推計）による年齢 3 区分（0～14 歳, 15～64 歳, 65 歳以上）別総人口及び年齢構造係数：出生中位（死亡中位）推計結果を改変した表である。設問に答えなさい。

表 1. 年齢 3 区分（0～14 歳, 15～64 歳, 65 歳以上）別総人口及び年齢構造係数：出生中位（死亡中位）推計

年次	人口（1000 人）				割合（％）
	総数	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上	65 歳以上
1990 年	（ア）	22,544	86,140	14,928	（イ）
1995 年	125,570	20,033	87,260	18,277	14.6
2000 年	126,926	18,505	86,758	22,041	17.4
2005 年	127,768	17,521	84,092	25,672	20.2
2010 年	128,057	16,803	81,032	29,246	23.0
2015 年	127,095	15,887	76,289	33,465	26.6
2020 年	126,146	15,032	75,088	36,027	28.6
2025 年	123,262	13,633	73,101	36,529	29.6
2030 年	120,116	12,397	70,757	36,962	30.8
2035 年	116,639	11,691	67,216	37,732	32.3
2040 年	112,837	11,419	62,133	39,285	34.8
2045 年	108,801	11,027	58,323	39,451	36.3
2050 年	104,686	10,406	55,402	38,878	37.1
2055 年	100,508	9,659	53,070	37,779	37.6
2060 年	96,148	8,930	50,781	36,437	37.9

各年 10 月 1 日現在の総人口（日本における外国人を含む）。

出典：国立社会保障・人口問題研究所日本の将来推計人口（令和 5 年推計）一部改変

https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp_zenkoku2023.asp

設問 1 表の（ア）（イ）の数字を埋めなさい。但し、（イ）は小数点第 1 位まで求めなさい。
（2×5 点＝10 点）

設問 2 1990 年と 2000 年の 0 歳～14 歳の割合（％）を小数点第 1 位まで求めなさい。
（2×5 点＝10 点）

設問 3 表 1 より 0 歳～14 歳と 65 歳以上の割合（％）を比較して、正しいものを選びなさい。
（10 点）

- (1) 0 歳～14 歳と 65 歳以上の割合は一貫して増加をしている。
- (2) 1990 年では 0 歳～14 歳の割合が 65 歳以上の割合と比較して低い。
- (3) 2000 年では 0 歳～14 歳の割合が 65 歳以上の割合と比較して高い。
- (4) 1990 年から 2000 年の間に 0 歳～14 歳と 65 歳以上の割合は逆転している。

Ⅳ 次の文章は認知症になった認知症専門医の著書からの抜粋である。文章を読んで設問に答えなさい。

認知症の人だって、みんな違ってみんな尊い。このことを忘れないで接してください。認知症になってからも、人は連続した人格を保っています。その人格は、誰一人として同じではありません。世界中を見渡しても、私という人間と同じ生活歴で、同じ考えを持っている人は私以外いません。

だからこそ、人間は誰もが尊厳を持った大切な存在です。認知症になって、その人らしさが失われたように見えても、あるがままのその人が尊いことに違いはありません。認知症の人と接する際、何よりも心に留めておいてほしいのは、認知症の人も自分と同じ「一人の人間」であり、この世にただ一人しかいない唯一無二の尊い存在だということです。

出典：認知症でも心は豊かに生きている 長谷川和夫 中央法規 2020.

設問 1 認知症の人について、著者が主張する内容で正しいものを選びなさい。(5 点)

- (1) 人格は保持される
- (2) その人らしさが失われる
- (3) 症状はみんな同じである
- (4) 同じ考え方になる

設問 2 著者は認知症の人へどのような接し方をしてほしいと思っていますか。30 字以内で記述しなさい。(5 点)

Ⅴ 上記Ⅱ～Ⅳを踏まえて、認知症になった人への対応について具体例を示して、あなたの考えを 350～400 字以内で記述しなさい。(40 点)

令和 7 年度
名桜大学 人間健康学部 健康情報学科

3 年次編入学試験

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
2. 解答時間は 90 分である。
3. 解答用紙に受験番号、氏名を必ず記入すること。
4. 解答方法は次のとおりである。
 - 1) 解答はすべて解答用紙の所定の欄に横書きで記入すること。
 - 2) 解答用紙の他に下書き用紙を配付するので取り違えないように注意すること。
 - 3) 試験問題の裏及び余白を下書きに使用してよい。
5. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

次の文章を読んで、後の問題に答えよ。

これまで、IT、ビッグデータ、IoT とさまざまなキーワードが新聞をにぎわせてきたが、2010 年代の主演は間違いなく人工知能であろう。実際、人工知能という単語が入っているだけで新聞・雑誌の売れ行きが違うのだという。国の今後の IT 戦略でも人工知能は重要な柱となっている。「わが社の人工知能への取り組みはどうなっているのだ」と社長が部下に詰め寄り、困った社員が人工知能研究拠点や人工知能ベンチャー企業に駆け込む、といった構図も多発している。実際、深層学習技術で高い能力を持つある人工知能ベンチャーは「人工知能・駆け込み寺」として紹介されているくらいである。今から人工知能をやっていると落ちこぼれてしまうという恐怖感があるようだ。

(中略)

今回の人工知能ブームのおかげで、大手を含むさまざまな報道メディアが人工知能に関心を持ち、われわれに一般社会との接点を用意してくれる展開になったのである。これは貴重な機会であると同時に、積極的にメディアを通して一般社会に対して人工知能研究開発の現状について情報発信をしなければならぬ状況となったということでもあるのだ。なぜなら、一般社会と人工知能の研究・開発の現場とでの人工知能に対する捉え方に、想像以上の違いが生まれてしまっているようなのである。一般雑誌やメディアの記者・ライターからの取材や彼らとの意見交換を通して、一般社会における人工知能に対するイメージを把握できるわけだが、極論を言えば、「人工知能＝ターミネーター＝脅威」という図式になってしまっているのだ。

なぜこのような事態になったのかというと、大きく 2 つがトリガーになっていると考えている。1 つが、レイ・カーツワイルの「シンギュラリティ」であろう。「2045 年に人工知能が人類を追い抜く」という短いフレーズは衝撃的であり、この情報のみが一人歩きしてしまったことが、人工知能脅威論に大きな影響を与えたことは間違いない。本書では 2025 年が主役なのだが、その前に 2045 年について触れておこうと思う。

2045 年に何が起こるのか？シンギュラリティとは何か？われわれは今や計算するときには当たり前のように電卓を使う。高度な表計算が必要なときには表計算ソフトを使い、文章を書くにはワープロソフトを利用する。なぜ利用するのか？「正確」で処理も圧倒的に「速く」、要は「便利」だからである。そもそも道具とはわれわれの身体能力を拡張することが目的であり、逆の言い方をすればわれわれの能力の置き換えである。電卓も見方によっては、「計算する能力を奪われた」ともいえるし、「計算する能力を放棄した」ともいえる。ワープロを使うようになって手書きの頻度が少なくなったことで漢字を書くことが苦手になった人が増えたが、これも、ワープロソフトを使うことになったことで、手で書くという作業が「奪われた」といえるし、「手で書くことを放棄した」ともいえるのだ。そう、われわれは便利な道具はちゅうちょせずに利用するのである。移動するときには当たり前のように自転車、自動車、電車、航空機を利用する。歩くよりもはるかに便利だからだ。日常生活の必需品の地位を獲得したスマホだって、便利だから使う。そして、スマホこそ人工知能技術の塊なのである。当たり前のように役立つかな漢字変換でさえ、人工知能技術が利用されている。グーグル検索にキーワードを入力すると、どうして適切なサイトが表示されるのだろうか？ここにも人工知能技術が欠かせない。現在の人工知能技術は知的 IT 技術と呼んだほうがその実体に近いのだ。

人工知能という単語自体が残念ながらさまざまな誤解を招くことになっているようだ。人工〇〇という単語はいろいろある。人工心肺、人工降雪機、人工ダイヤモンドなど。人工的に〇〇を作る技術のことを人工〇〇と呼ぶわけであるが、当然ながら、〇〇がどういう仕組み、構造であるかが既知であるからこそ人工的に作ることができる。

よって人工知能は人工的に知能を作る技術ということになるのであるが、知能とはそもそも何だろうか？意外に思われるかもしれないが、知能の確固たる定義は存在しないのである。書籍『人工知能とは』（近代科学社、2016年）では、十数名の人工知能研究者が、それぞれ知能の定義について持論を展開しているが、実に多様である。ただし、「何かしらの問題にぶつかったとき、その問題を解決して先に進む能力のこと」を知能と呼ぶという抽象的な定義においては、ほぼ共通した見解といえよう。しかし、問題を解決する能力といわれても、どのように解決するのかについての説明がなければ、それを人工的に作ることはできない。

現在の自然界において最も知的な生物は人であり、人こそが知能を持つという考え方も正しいが、果たして人だけが知能を持つのだろうか？アリは知能を持たないのだろうか？確かにアリはわれわれのように字を書いたり器用に道具を使ったりする高い知能は持ち合わせてはいない。しかし、自然界で生存するために驚くべき能力を持っている。夏になると、アリの行列をよく見かける。餌を巣穴に運ぶための行列である。しかもその行列は餌と巣穴を結ぶほぼ最短経路になっているのだ。アリはどうやって最短経路での行列を作り上げることができるのだろうか？そもそもどうやって最短経路を探し出しているのだろうか？鳥のV字飛行もよく見る光景であるが、あらためて考えると、どうやって、そしてなぜV字となるように整列しているのだろうか？多数のイワシが1つの塊のようになって泳ぐシーンをテレビなどで見た読者も多いと思うが、どうやってあのようなきれいな塊を作り上げているのだろうか？

実は個々のアリは自分たちが最短経路を探しているという意識を持たずに歩き回っており、個々の鳥もV字を、そして個々のイワシも自分たちが塊を作っているなどという意識は持っていないのである。それにも関わらず、最短経路の探索やV字編隊の形成という、どう見ても知的な振る舞いが創発されているのだ。アリは人に比べればはるかに知性は低い。しかし、ではわれわれもアリのように2地点間の最短経路を見つけ出すことは可能だろうか？もちろん、地図もGPSもスマホも使ってはならない。人は問題を解決するために考えることができる。まさに考え最終的にはそのような状況でも最短経路を見つけ出す方法を編み出すとは思いますが、かなりの時間がかかるだろう。アリも鳥も魚もちゃんと知能を持っているのである。

では、2045年にいったい何が起こるのだろうか？人工知能が人を追い抜くとはどういうことなのだろうか？例えば、2045年5月21日が追い抜かれるXデーだとして、5月14日には「あと7日で人類は人工知能に追い抜かれます！」などと騒いでいるのだろうか？おそらくはそうではなく、人は人工知能に追い抜かれたことには気がつかないし、追い抜かれた前後で何かが劇的に変化する、ということもないと筆者は想像している。また、人工知能に追い抜かれるというが、人工知能それ自体には実体がなく、パソコンやスマホ、またロボットやAR・VR上でのCGで作られたキャラクターなど、実体に組み込まなければその能力を発揮することはできない。いわば黒子のような存在である。つまりはロボットやVRなどの人工知能以外のさまざまな技術も、加速度的に進化する必要があるのだ。

ロボティクスとナノテクノロジーの進化は特に重要だろう。ナノボットが実現されることで、それを血管から投入して詳細な体内の状態を把握できるようになるだろう。もちろんデータの分析は人工知能の役目であるが、そもそもデータを収集する技術が実用化されなければ、人工知能の出番はない。人工知

能以外のさまざまな科学技術の加速的な進化も、シンギュラリティが実現するには必須なのである。

カーツワイルが2045年と算出したのにも理由はある。彼は人工知能を含むさまざまな科学技術がどのようにその性能が向上してきたのかを入念に調査した。そして、脳に対しても、これをコンピューターとして捉えればその計算能力などを数値化することはできる。それらのデータや、今後の人工知能技術の進展予測などから、人類全体の能力を人工知能が上回るのが2045年であろう、という結果が導き出されたのだ。しかも、抜かれるときに本当に来るとしたら、抜かれるのは一瞬であり、その直後には人工知能の能力は人と比較できるレベルではなく、「天と地ほどの差」となっていると考えerほうが自然なのである。前述したように、人工知能を含むさまざまな科学技術は加速度的に進化し、シンギュラリティが起これると想定される頃には垂直的な速度での進化となっているであろうからである。よって、映画「ターミネーター」のように人と人工知能とが戦いになるのは両者の力が均衡しているからだが、現実はそのようにならない。人はアリを見つけてもその身体能力に敵意や脅威は抱かない。体の大きさから見ても、その能力から見ても、人とアリでは天と地ほどに違う。それと同じ構図である。人工知能が人に脅威を感じるようなことになるとは考えにくい。

そもそも、人が自分たちのために開発する人工知能なのだから、人と共生し、人を見守る存在としなければならない。筆者は講演会で、例えとして西遊記をよく引き合いに出す。孫悟空は自らの意思で金斗雲を乗り回し世界の端まで飛んでいく。すると目の前に大きな柱が出現する。それはお釈迦様の指であり、自由に動き回っていたはずが、お釈迦様の手のひらの上にすぎなかったという一節である。お分かりかと思う。悟空が人であり、お釈迦様が人工知能というわけだ。これでは人には自由意志がなく、しょせんは人工知能に管理されていると思われるかもしれないが、水道や電気のような生活インフラと同じである。生活インフラはあって当たり前で、普段はその重要性をあまり意識しない。しかし、なくなるとその必要性を強く感じる。2045年頃は人工知能が生活のインフラとして定着しており、われわれの生活になくはならない存在となっているだろう、ということである。そして、その予兆はすでに見え始めている。スマホが良い例だろう。

(中略)

ディープラーニング応用が支える3度目の人工知能ブームや、ブームに火を付けることになった2045年のシンギュラリティ問題などについて述べてきたが、実は日本においては2025年問題が先に到来する。2015年と比べると、2025年には、日本の人口が700万人も減る。問題は年齢構成であり、15歳から64歳の生産年齢人口が7000万人まで減少してしまうものの、65歳以上の人口は3500万人を超えるのだそうだ。さらに、ネガティブな予測であるが、2025年になると、いわゆる団塊の世代が75歳超えの後期高齢者となり、国民の1/3が65歳以上、そして1/5が75歳以上という、本当に少子高齢化社会を迎えることになるのである。

この問題に人工知能で何かできるのか？労働力補填ということでの人工知能やロボットの社会導入というシナリオを想像しやすいが、確かに自動農作業ロボットを導入し、人に代わって農業を立て直すことは可能であろう。しかし、100%ロボットしか稼働しないような現場であれば、淡々と農作業を行うだけの、自動車工場での組み立てロボット工場のようにさせてもよいのかもしれない。しかし、畑や農作業現場には高齢化した農家がまだ現役として頑張っているかもしれないし、そもそも、工場と違ってこれから人工知能が導入されるのは人が普通に生活する、いわゆる生活圏である。ロボットが導入されることで作業能率が劇的に向上したとしても、現場にいる人が萎縮したり、疎外感や、人同士の親近感のある日常生活が崩れてしまったりしては本末転倒である。社会に浸透する人工知能は、人と共生できなけれ

ばならない。また、人工知能やロボットのみがその能力を進化させるだけでは2025年に対応することはできない。社会インフラとしてのIoTの進展も必須であろう。

出典：

AIX（人工知能先端研究センター）著、『人工知能と社会 2025年の未来予想』、オーム社、2018年、より抜粋し、一部を改変

問題1

少子高齢化が進むことにより社会的にはどのような影響があるか、あなたの考えを50字以内で説明しなさい。

問題2

将来、人と共生する人工知能により、少子高齢化による問題はどのように解決されていると考えられるか。あなたの考えを900字以内で述べなさい。複数の問題に対する解決を述べてもよい。

小論文「出題の意図」、総合問題「模範解答」

小論文および総合問題における論述問題の解答については、一義的なものではないため、出題の意図を公表します（学科によっては論述問題においても模範解答としています）。

編入学試験

◇国際学部 国際文化学科 事前提出型小論文 「出題の意図」

国連の「先住民族の権利に関する宣言」（2007 年）など、国際社会では先住民族の権利保障が進められている。日本も 2019 年に通称「アイヌ施策推進法」を制定したが、実際の取り組みは未だ不十分である。先住民族などを含むマイノリティも住みよい社会とは、持続可能な社会の実現において不可欠な「多文化」「多様性」「平等」というキーワードにつながる。

評価は以下の視点で行う。

1. 問題の趣旨に適した自分自身の知識や経験を踏まえて書いている。
2. 意見が明確であり、論拠を明示している。
3. 倫理の飛躍・混乱がなく適切にまとめられている。

◇国際学部 国際観光産業学科 事前提出型小論文 「出題の意図」

志願者が地域文化の普及活動が、地域の活性化にどのように寄与するのかを考察し、地域文化がどのように社会に貢献しているかを論理的に述べているかを問う。

評価は以下の視点で行う。

1. 問題の趣旨に適した自分自身の知識や経験を踏まえて書いている。
 2. 意見が明確であり、論拠を明示している。
- 倫理の飛躍・混乱がなく適切にまとめられている。

◇人間健康学部 スポーツ健康学科 小論文 「出題の意図」

小論文における知識・技能、スポーツに関する知識・思考力が評価の対象になる。

◇人間健康学部看護学科 3 年次編入学試験 総合問題 「模範解答」

I. 次の文章について設問に答えなさい。

設問 1 下線の a～e を漢字に直しなさい。（5×5 点＝25 点）

a:機能低下 b:記憶 c:器官 d:萎縮 e:障害

設問 2 文中の①～⑦に入る語句を下記の語群より選びなさい。（7×5 点＝35 点）

①エ ②シ ③ク ④ア ⑤カ ⑥ケ ⑦ウ

Ⅱ 次の文章および図は World Population Prospects 2019 Highlights の一部を抜粋し部分的に日本語に訳したものである。文章および Figure12 を読んで設問に答えなさい。

設問 1. 下線①の文章を日本語にきなさい。(20 点)

2018 年、人類史上初めて全世界の 65 歳以上の人が 5 歳未満の子どもの数を上回った。

設問 2. 下線②を日本語にきなさい。(5 点)

15 億

設問 3 下線③の内容について正しいものを 2 つ選びなさい。(2×10 点=20 点)

(5). 世界の男女の全体数はほぼ同じである。

(6). 男性より女性の平均寿命が長いので、高齢になると女性が男性より多くなる。

設問 4 下線④を英語にきなさい。(5 点)

level

設問 5 Figure12 の B および E の年齢層を下記の A～オより選びなさい。

(2×5 点=10 点)

B=オ E=ア

Ⅲ 下記の表 1 は国立社会保障・人口問題研究所日本の将来人口推計（令和 5 年推計）による年齢 3 区分(0～14 歳, 15～64 歳, 65 歳以上)別総人口及び年齢構造係数：出生中位(死亡中位)推計結果を改変した表である。設問に答えなさい。

設問 1 表の (ア) (イ) の数字を埋めなさい。但し、(イ) は小数点第 1 位まで求めなさい。(2×5 点=10 点)

ア=123.612 イ=12.1

設問 2 1990 年と 2000 年の 0 歳～14 歳の割合 (%) を小数点第 1 位まで求めなさい。

(2×5 点=10 点)

1990=18.2 2000=11.9

設問 3 表 1 より 0 歳～14 歳と 65 歳以上の割合 (%) を比較して、正しいものを選びなさい。(10 点)

(4). 1990 年から 2000 年の間に 0 歳～14 歳と 65 歳以上の割合は逆転している。

Ⅳ 次の文章は認知症になった認知症専門医の著書からの抜粋である。文章を読んで設問に答えなさい。

設問 1 認知症の人について、著者が主張する内容で正しいものを選びなさい。(5 点)

(1). 人格は保持される

設問 2 著者は認知症の人へどのような接し方をしてほしいと思っていますか。30 字以内で記述きなさい。(5 点)

※以下の回答例のいずれかを回答していれば正解とした。

- ・ 尊厳を持った接し方
- ・ 自分と同じ一人の人間としての接し方
- ・ 認知症を持つ人としての接し方

V 上記Ⅱ～Ⅳを踏まえて、認知症になった人への対応について具体例を示して、あなたの考えを 350～400 字以内で記述しなさい。(40 点)

[模範解答]

世界的に人口の高齢化が進行しており、今後も高齢者の割合は増加することが予測されている。特に日本は世界でも少子高齢化が進んでいる国の一つであり、高齢化の進行に伴い、認知症高齢者も増加している。認知症とはアルツハイマー病や脳血管障害など、脳の機能低下によって記憶力や判断力などの認知機能が低下する症状であり、加齢に伴い増加する。日本では認知症に対する普及啓発や予防、認知症になっても安心して地域で生活できるような社会作りに取り組んでいる。しかし、認知症の人に対する社会の偏見や差別があるのが現状である。私の祖母も時々「認知症になったらもうおしまい。周りに迷惑をかけたくない」と、話をして認知症になることを恐れている。私は誰でも認知症になる可能性はあると思うので、もし、祖母が認知症になっても大好きな祖母のことを大切な存在として、これまで同様に接し、できるだけ祖母を支えていきたいと考える。

(391 文字)

◇健康情報学科 3 年次編入学試験 小論文

「出題の意図」

人工知能に関する 5,000 字程度の課題文を読み、課題の理解力と表現力を問う。健康情報学科編入後の学習・研究活動に必要な知識や興味を前提に、思考力・論理的な表現力を問う。

名桜大学 編入学試験問題集

＜令和 7(2025)年度＞

令和 7 年 7 月 7 日印刷発行

編集・発行：名桜大学 教務部 入試・広報課
〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220 番地の 1
TEL：0980-51-1056

※本冊子の無断複写・複製・転載を禁じます。